

議会運営委員会行政視察報告

1. 視察日程 平成30年1月22日(月)
2. 視察場所 大阪府貝塚市役所
3. 視察参加者 河野 正治 藤本 治郎 小春 稔
渡辺 雄爾 阿部 長夫 堀 典義 中山田 昭徳
(随員) 安倍 公彦
4. 貝塚市議会出席者
議長 田中学 事務局長 加藤広行
新政クラブ 代表 真利一朗 阪口芳弘 南野敬介 松波謙太
貝塚市市役所 環境課長 他 5名

5. 視察事項

【視察テーマ】『議員発議 条例提案について』

【背景】 貝塚市は、大阪府の南部に位置し・面積 43,93k m²・人口 88,694 人(H27)・議員 18名の都市で、弥生時代より集落が形成され中世末は信長秀吉と紀州根来寺との戦いの最前線にあたり、その動乱の中から浄土真宗の自治都市である貝塚寺内が成立・発展し現在の貝塚市の基礎になったと考えられる。

まちづくりの理念は「元気あふれる みんなのまち 貝塚」をかかげ、「市民との協働」「民間活力の活用」「行政の効率化」に基づき具現化の達成を目指している。

【施策内容】「貝塚市の環境整備と活性化をめざし住みよいまちを作るための条例」

- * 条例の制定の発端は、貝塚駅周辺の空き家や空き地が非常に目立つ状況下の中で、住民からの強い要望が長く言われてきた
- * 執行部の動きが悪いので、議会人として会派で取り組む決意した
- * 駅周辺は、1人の地主が広い土地(約80%)を所有して、難しい事案であるが、地域全体の環境整備を進めたい為
- * 重要なのは、地域住民の理解を頂き進めていく事
- * 会派主導の議員発議条例であるが、全協での話はしていなく、会派単位で説明 理解をして頂いた
- * 条例作成にあたっては、職員・弁護士にも協力を頂いた
- * 採決の結果派、6会派中4対2で成立した

【所見】 貝塚市議会は、1期2期3期の議員が18名中14名と大都市に近いためか若いエネルギーが印象的で、議員各位も全てに全力で向かい、議員間の話し合いの大切さを十分に理解して議員活動を行なっている。

地域性も大阪府のベッタタウンでは無く、元々農業中心であったが大手地場企業を中心に発展してきた。

特に、南海電鉄の貝塚駅周辺は高度成長期に発展を成し昭和の雰囲気が残る中、荒廃が大きな問題となってきた、子供達の生活環境も良いとは言えない状況になっていた。

しかし、地権者の関係から行政も手をつける事が難しく苦慮していた。その中、住民の声を強く受けた若手議員が対策に動き、まず、条例を制定する事に取り組んだ素晴らしい事例で有ると考えます。

貝塚市の市民憲章に「人間性豊かなまちづくり」「美しい環境づくり」「みんなで助け合い、おもいやりのある、心あたたかい社会をめざす」等有り、時間の流れで行政に関わる者としての基本的な姿勢を忘れがちになる中で、できた原動力はフレッシュな若手議員の集まりだったという事と、そして、全員が貝塚駅周辺が地元であった事で制定時間が掛かっても実現ができた様で有る。

ここ事を観ても、我々 議員は基本に忠実に、常に市民目線を忘れることなく、あらゆる分野で果敢に挑戦していくべきと再認識した。

また、本来の目的であった条例制定迄の議会内の取り決めや進行の方法を聞いたが、特に決め事は無く、制定有りきで行なった様で、その後も何も決めていない。

このことは、若手議員が大半であるがゆえに成せたこと・足らざることが観れたが、貝塚市議会は常に会派間の話し合いを行ってきた結果だと感じた。

しかし、基本は常に市民が主体で有る事を忘れずに、まず、住民の対話を経て行動する事の大切さを見習いたい。

施策的には、杵築市も決して負けては無いと思うが、市民の考え方で生活環境改善が繁栄されている感想を得た。

